

令和4年度

## 学校評価（総括評価表）結果

### 1 徳島教育大綱の基本方針

『未知の世界に果敢に挑戦する夢と志あふれる「人財」の育成』

- ① 未来を切り拓いていく人財の育成
- ② 新たな価値を創造していく人財の育成
- ③ 地域を輝かせる人財の育成

### 2 本校の教育基本方針

- ① 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで自主性，創造性に富んださわやかな生徒を育成する。
- ② 国際的な視野をもち郷土や社会の発展のため積極的に行動できる次代を担う生徒を育成する。
- ③ 確かな学力を身につけこれからの社会をたくましく生き抜き未来を創造する生徒を育成する。

### 3 スクールミッション

「6次産業化教育の基盤となる農業教育」や「人文・情報・ビジネス・自然・生活・福祉」から選択できる総合学科の特長を生かして，一人ひとりの個性・可能性を伸ばし，地域産業を支えるために必要となる力を育成します。

徳島県立城西高等学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題1	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
「確かな学力の育成」	<p>(全体レベル) 授業内容の工夫・改善を通じて、主体的に学習に取り組む態度を養い、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。</p> <p>(下位組織レベル) ① 一人一台端末や電子黒板等のICTを積極的に活用し、生徒にわかりやすい授業を行う。 【情報視聴覚課】</p> <p>② 言語活動などの学習の基盤となる活動を充実させ、基礎学力の向上を図る。 【進学課】</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 【進学課】</p> <p>④ 学校図書館を計画的に利用し、図書に触れる読書活動を充実する。 【図書課】</p>	<p>評価指標</p> <p>① ICTを活用し生徒が主体的に学ぶことができ、理解しやすい授業を実践する。また一人一台端末も積極的に活用し、生徒のICT活用能力・情報収集能力・情報モラル等を向上させる。 【ICT活用に関する教員研修の実施：年1回以上】 【ICTを活用した授業：毎月1回以上】</p> <p>② 生徒が、理解しやすい、力がついたと感じる授業を実践する。 【授業がわかりやすいと答えた生徒：80%以上】</p> <p>③ 生徒の深い学びにつながる授業を実践するための授業改善に取り組む。 【学習への意欲が高まったと感じる生徒：70%以上】</p> <p>④-1 図書館利用活性化のために、定期的に広報活動に努める。 【「図書館だより」発行：年9回】</p> <p>④-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数増加を目指す。 【生徒一人あたりの年間図書貸出数：3冊以上】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 生徒が理解しやすいICTを活用した授業を実践していくために、教員間での情報交換を積極的に行う。</p> <p>①-2 ICT活用に関する教員研修を実施する。</p> <p>②-1 学習の基盤となる言語力育成のため、読む・書く・話す活動を授業内で取り入れる。</p> <p>②-2 振り返り学習を通して、生徒が基礎基本を身につけるための学習を徹底させる。</p> <p>③ 学習内容について理解したことや自分の考えを文章にまとめさせ、話し合いや発表の機会を増やすことで生徒の深い学びにつながる授業改善を実践する。</p> <p>④-1 「図書館だより」を4・5月、7・8月、2・3月が合併、その他は月毎で、年9回発行し、ホームページにも掲載することで、生徒・保護者に対し、読書啓発活動を行う。また、図書館利用活性化のために、学期毎に企画展を行う。</p> <p>④-2 生徒が興味・関心を持つ図書を精選して購入し、書架レイアウトの工夫により、読書活動へと導く。また、「図書館だより」における「おすすめ本」の紹介記事の充実を図る。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 1学期末実施のアンケートではICT（電子黒板等）全く使用しないが2.4%であったが、2学期末に実施したアンケートでは0%であった。教員間で情報交換を行い、ほぼできると回答した割合は90%程度であった。</p> <p>② 授業がわかりやすい、授業を通して学習の基礎基本が身についたと答えた生徒は85.2%で、目標を達成できた。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組んでいると答えた生徒は85%であった。また、授業を通して考える力が身についたと答えた生徒も85%であった。また、宿題や課題を確実に提出していると答えた生徒は91%だった。</p> <p>④-1 「図書館だより」年9回発行した。達成度100%であった。</p> <p>④-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数12月末までで1.7冊であった。全国的に読書離れの傾向があるとは言え、より効果的に読書啓発活動に取り組みたい。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 積極的に情報交換を行うことができた。</p> <p>①-2 ICT活用に関する全体の研修は実施できなかったが、教員同士で相互に教えあったり、週一度のGIGAサポーターを活用し個別にスキル向上に努めた。</p> <p>②-1, ③ 授業の単元毎、学期毎などに授業内容の振り返りや自分の考えを文章にさせた。また、授業で扱う題材によっては、それに関する調べ学習をグループで行って発表させる活動も多くの授業で実施した。</p> <p>②-2 学び直し教材や一般常識テキストを活用したり、年3回実施している基礎力診断テストの振り返りを行うことで、基礎基本の定着を行った。</p> <p>④-1 「図書館だより」は予定通り発行した。学期毎の企画展も、各学期に合ったテーマを設定するとともに、3年生が授業で作成した「本の帯」を活用して推薦図書を展示するなど、生徒参加型の展示を実施した。</p> <p>④-2 生徒からのリクエスト本は最優先して購入するとともに、図書委員からの「おすすめ本」を入館時に目に付きやすい場所に展示するなど、生徒に関心を持たせる工夫をした。しかし、貸出冊数の増加には繋がっていないので、さらなる工夫を検討したい。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>① 学習内容の理解を高めることができたという生徒の割合は71.3%であった。これからも電子黒板を活用してほしいという生徒の割合も85.3%であり、次年度もICTの効果的な活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>②③ 決められたことはできている生徒が大半となっているが、それ以外の生徒の意欲を引き出す指導が今後必要であると考えている。</p> <p>④ 図書館利用活性化のための広報活動に努めたが、図書館を授業以外では全く利用しない生徒も少なくない。魅力ある図書館づくり、読書啓発活動にさらに尽力する必要がある。</p> <p>① 電子黒板を効果的に使えるかというアンケート結果でも90%の教員ができる・わりとできると回答している。ニーズに応じた効果的な研修を検討していく必要がある。</p> <p>②③ 授業で学んだことを文章にする活動は自己評価もでき、学習内容の定着につながる。今後も積極的に機会を増やしていきたい。生徒による授業評価で、授業中に復習の時間や生徒同士で教え合うという希望が多くあり、グループ学習を取り入れ、生徒が自ら学習に取り組もうとする姿勢を確立させることが大切だと考える。</p> <p>④-1 12月末までの入館者数は2,934名であるが、授業時以外に来館したことのない生徒も多い。来館を促す方策を考えたい。</p> <p>④-2 図書の選定において、生徒の進路選択に役立つ図書、生徒からリクエストのあった本は優先的に購入しているが、12月末までの貸出数は生徒一人あたり約1.7冊である。さらに読書啓発に取り組む必要がある。</p>	<p>① ICTをうまく活用しており分かりやすい授業ができている。</p> <p>① 電子黒板と生徒用タブレットの画面が同じであるならば、板書を取らせず、スクリーンショットで保存させればよい。</p> <p>①②③ 授業を工夫をしているのは良い。OUT-PUTは達成されているが、OUTCOMEにどのように結びつけるかに課題がある。就職試験における企業人事担当者からの「基本的な学習をさせてほしい」等の指摘を授業にフィードバックする必要がある。</p> <p>④ 3学年の国語表現で実施している本の帯の作成はとも良い。図書の貸し出し数が伸びないのは、借りずに読み切ってしまうことがあるためかもしれない。</p> <p>・ホームページにより見やすい形で図書館だよりを掲載する。</p> <p>・生徒作成の「本の帯」を使って紹介コーナーを、渡り廊下等校内にも掲示し、広くアピールする。</p> <p>・リクエスト本が入荷した時には、リクエスト者に知らせるだけでなく、全体に広報する。</p>

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題2	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
「城西スタンダードの確立」	<p>(全体レベル)</p> <p>生徒と教師の信頼関係を築き、温かみのある生徒指導を通して、生きる力と望ましい生活態度を育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 挨拶、身だしなみ、清掃、時間を大切にすることを育成する。【生徒指導課】</p> <p>② 交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。【生徒指導課】</p> <p>③ スマホルールの意義を理解させ、遵守する態度を育成する。【生徒指導課】</p> <p>④ 豊かな心を育て、いじめを防止する。【生徒指導課】</p>	<p>評価指標</p> <p>3年間で生きる力が身についたと答える生徒 【80%以上】</p> <p>①-1 規則正しい生活ができている、またはできるようになったと答える生徒 【90%以上】</p> <p>①-2 相手や時と場合に応じた言葉遣いやマナーが身についたと答える生徒 【90%以上】</p> <p>② 交通ルールや交通マナーを守っている、または守るようになったと答える生徒 【90%以上】</p> <p>③ スマホルールの意義を理解して守っている生徒 【90%以上】</p> <p>④ 友達を思いやる言動ができている、周囲の人を大切にしていると答える生徒 【80%以上】</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>3年間で生きる力がとても身についたと答えた生徒は52%、まあまあ身についたと答えた生徒は32%で、合わせると84(80.3)%であった。( )は昨年度</p> <p>①-1 規則正しい生活が以前から送れている生徒は40%、規則正しい生活が送れるようになったと答えた生徒は33%であった。合わせると73(69.3)%であった。</p> <p>①-2 相手や時と場合に応じた言葉遣いやマナーがいつもできていると答えた生徒は57%、ほぼできていると答えた生徒は34%であった。合わせると91%であった。</p> <p>② 交通ルールをいつも遵守している生徒は85%、ほぼ遵守している生徒は14%で、合わせると99(98.7)%であった。</p> <p>③ スマホルールの意義を理解して守っている生徒は99.2%であった。</p> <p>④ クラスや部活動、学校外において他を思いやることができていると答えた生徒は56(52.1)%、まあまあできていると答えた生徒を含めると95(93.5)%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>① 学校生活が楽しいと答えた生徒は89(86.2)%である。生きる力が身についたことが自信につながり、規則正しく充実した生活が送れているのではないと思われる。日々の充実した活動が生徒の自尊心を育み、豊かな心の醸成、他者への思いやりにつながると思われる。</p> <p>② 交通ルールを遵守する意識の生徒が大半である。その結果、昨年度と比較して事故件数が減少していると考えられる。継続した集会等での注意喚起の成果が表れていると考えられ、今後も定期的に全体への注意喚起を実施していきたい。</p> <p>③④ スマホルールを守れている生徒が大半を占めるようになり、情報モラルについて考え理解した上でのSNS等の利用と、友達を思いやる言動ができていることがリンクして育まれていると考えられる。</p>	<p>①②③④ 評定に関して、規則正しい生活ができている生徒は目標の90%に対して73%であるが、その他の目標については達成している。昨年と比較して事故件数が減少していることや、スマホルールが守れていること、すすんで挨拶ができていること、適切な言葉遣いができているなど、全体として生徒の規範意識はかなり良くなっている。</p> <p>①④ 9割ぐらゐの生徒が満足感を持っているが、残り1割の生徒に対してはメンタルケアが必要である。</p>	<p>① コロナ禍における生活様式からの脱却により、規則正しい生活を送るために、生活指導の機会を増やしていく。また、学校生活への充実感や生徒に對して、担任や学年団でのフォローアップを充実させたい。</p> <p>② 交通事故件数の減少に向けて、講習会だけでなくホームルーム活動やICT機器を活用し、細かな交通ルールや他者に迷惑をかけない運転マナーを学ぶ機会を増やしていきたい。</p> <p>③④ 挨拶できる生徒や適切な言葉遣いができる生徒は、自尊心が高まっていると思われる。今後もルールやマナーを大切に尊重することや、他人と繋がり、良い人間関係を構築していくために重要である事を、日頃から伝えていく。また、今後成年年齢引き下げに伴うSNS等の詐欺や犯罪に巻き込まれない指導を充実させたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 挨拶・礼儀・言葉遣い・遅刻しないなど社会で大切なことを、あらゆる機会を通じて理解させる。</p> <p>①-2 身だしなみを整えること、仲間や他の人に対する奉仕の精神が社会に出て大切なことだと理解させ、実践できるよう呼びかける。</p> <p>② 交通ルールや交通マナーを守ることも、他者を守り、そして自分を守ることになり、豊かな社会を作り出すことをあらゆる機会を通じて理解させる。また、交通事故などを防ぐための判断力をホームルーム活動や講演会を通じて身につけさせる。</p> <p>③ スマホの使用について、善悪の判断ができる力をホームルーム活動や講演会を通じて身につけさせる。また、不適切な書き込みが人権問題に発展することを理解させる。</p> <p>④ 友達を思いやる言動や周囲の人を大切にすることが、よりよい人間関係を築くことに繋がり、豊かな心を育む一助になることを理解させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 全校放送・学年集会やホームルーム活動等を通じて、挨拶・礼儀・言葉遣い・遅刻をしないよう呼びかけた。毎朝登校時に教員による立哨指導を行った。また、遅刻を繰り返す生徒には放課後遅刻指導を実施し、改善を促した。「制服着こなしセミナー」を開催し、身だしなみを整えることの大切さを講演していただいた。</p> <p>② 「交通安全教室」の講演、「高校生の交通と安全」を使ってのホームルーム活動、また全校放送や学年集会を通じて安全運転について啓発した。学校周辺での事故多発場所を地図に記して各教室に掲示し、安全運転を心がけるよう啓発した。</p> <p>③④ 全校放送・学年集会やホームルーム活動、「消費者安全教室」などを通じて、SNSへの他者に対する不適切な投稿をしないよう啓発した。同時に、スマホの向こうにいる相手の立場になって文章表現を考える大切さを伝えてきた。またSNSによる犯罪の危険性を知り、被害者にも加害者にもならないよう指導した。</p>	<p>① 自らすすんで挨拶できるとした生徒が87%であり、適切な言葉遣いができていると答えた生徒も多い。今後、日頃から社会に出て通用する礼儀・マナーを身につける働きかけをしていきたい。</p> <p>② 事故件数は昨年と比較して減少しているが、依然として自転車運転マナーについて近隣住民から指摘される事がある。細かな交通ルールや他者に迷惑をかけない運転マナーを指導したい。</p> <p>③④ SNSでのトラブルは減少したが、今後成年年齢引き下げに伴うSNS等の詐欺や犯罪に巻き込まれない指導の機会を増やす必要がある。</p>		

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題3	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
<b>「社会的自立と進路実現の支援」</b>  (全体レベル) 主権者としての自覚を促し、各学科の目的に応じたキャリア教育を推進する中で、社会的自立に必要な能力・態度を育成し、生徒の進路実現に努める。  (下位組織レベル) ① 主権者としての自覚を高めるための主権者教育を推進する。【主権者教育担当者】 ② 将来の夢や目標につながるキャリア教育を推進する。【進路指導主事】 ③ 18歳成人を踏まえ、困難に遭遇したときの対処法を身につける。【主権者教育担当者】 ④ 自己の在り方や生き方を考える、主体的に進路が選択できるよう支援する。【進路指導主事】	主権者としての自覚を促し、各学科の目的に応じたキャリア教育を推進する中で、社会的自立に必要な能力・態度を育成し、生徒の進路実現に努める。  (下位組織レベル) ① 主権者としての自覚を高めるための主権者教育を推進する。【主権者教育担当者】 ② 将来の夢や目標につながるキャリア教育を推進する。【進路指導主事】 ③ 18歳成人を踏まえ、困難に遭遇したときの対処法を身につける。【主権者教育担当者】 ④ 自己の在り方や生き方を考える、主体的に進路が選択できるよう支援する。【進路指導主事】	<b>評価指標</b> 進路決定率100%を目指す。 ①-1 主権者に必要な資質（問題を捉え、考え、判断し、行動する力）を授業で育む指導を実践する。【実践教科：5教科以上】 【教科別の取組実践例：1例以上】 ①-2 主権者教育を高めるための講座を実施する。【主権者教育の講座実施：年1回以上】 ②-1 自分の適性を知り、進路ガイダンス等を通して進路について考える。【自己理解度：90%以上】 ②-2 応募前見学を実施する。【応募前見学数：3社以内】 ②-3 教職員のスキル向上に向けて研修会を実施する。【満足度：90%以上】 ③ 成年年齢引き下げについての理解を深める。 ④-1 企業やハローワーク等との連携活動を推進する。【連携活動件数：80件以上】 ④-2 進路実現における生徒の満足度の向上を図る。【満足度：90%以上】	<b>評価指標による達成度</b> 進路決定率97.2%（1月末現在） ① 公民科だけでなく全ての教科で実施することができた。ホームルーム活動や学校行事を通して、主権者としての資質を育む取組ができた。 ①-2 11月に3年生を対象に「主権者教育を高めるための教育の充実のための出前講座」を実施し、選挙の意義について理解を深めた。 ②-1 職業適性検査の結果が、進路決定の時に参考になったと答えた生徒は全体の65.0%であった。 ②-2 各自が1社以上、企業への応募前見学を行い、自分の希望に合う企業選びや就職への意識付けを行った。 ②-3 教職員研修の満足度は満足と答えた教職員が全体の94%であった。 ③ 授業やホームルーム活動等で成年年齢引き下げについての理解を深めた。 ④-1 旧の3年担任と今年度の正副担任で23社、就職課で60社に電話連絡し、卒業生のアフターケアや求人依頼を行った。【総連携活動件数100件以上】 ④-2 1月末時点で合否未決定者の生徒もいるが、進路決定者の満足度は97.4%であった。	<b>総合評価</b> (評定) A (所見) ① 全ての教科で主権者教育をより実施することができ、とが必要である。 ② 企業への応募前見学は就労意識を高め、進路選択の幅を広げることができた。 ③ 成年年齢引き下げについての理解を深め、成年年齢引き下げの責任感をもつよう意識を高めることが課題である。 ④ 求人状況や増加の傾向など、進路指導に活用できた。	① 公民だけでなく他教科と連携を取りながら主権者教育を実施していきたい。 ② 進路実現に向けて、希望の進路を実現するための指導が必要である。基礎的な学力と試行錯誤の経験を通して、職業適性の検査は必ずしも必要と見えない。職業適性の検査は、希望の進路を導くための一つの目安として活用していきたい。 ③ 成年年齢引き下げについての理解を深めたい。 ④ 今年度は、新感覚の交換生やインターンシップなど、企業との連携が充実した。今後も、企業との連携を深めたい。	① 公民だけでなく他教科と連携を取りながら主権者教育を実施していきたい。 ② 進路実現に向けて、希望の進路を実現するための指導が必要である。基礎的な学力と試行錯誤の経験を通して、職業適性の検査は必ずしも必要と見えない。職業適性の検査は、希望の進路を導くための一つの目安として活用していきたい。 ③ 成年年齢引き下げについての理解を深めたい。 ④ 今年度は、新感覚の交換生やインターンシップなど、企業との連携が充実した。今後も、企業との連携を深めたい。
		<b>活動計画</b> ①-1 学校全体で共通理解を図り、取組を進めるとともに、各学科の授業で主権者教育を推進する。【主権者教育担当者】 ①-2 外部講師による講演を開催する。 ②-1 職業適性検査を実施し、自己理解を深め、進路について考える。【自己理解度：90%以上】 ②-2 ミスマッチ防止を図るための企業訪問を行う。【応募前見学数：3社以内】 ②-3 特別支援を必要とする生徒への進路指導を実施する。【満足度：90%以上】 ③ 各教科やホームルーム等で、事例をもとに成年年齢引き下げについて理解を深め、対処法を身に付けさせる。 ④-1 企業との情報交換やハローワークや専門機関との連携を行う。【総連携活動件数100件以上】 ④-2 納得の進路決定ができるよう個々に合わせた指導を行う。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 主権者に必要な資質について共通理解を深め、各教科等での取組を進めるとともに、各学科の授業で主権者教育を推進する。【主権者教育担当者】 ①-2 外部講師による講演を開催する。 ②-1 職業適性検査を実施し、自己理解を深め、進路について考える。【自己理解度：90%以上】 ②-2 ミスマッチ防止を図るための企業訪問を行う。【応募前見学数：3社以内】 ②-3 特別支援を必要とする生徒への進路指導を実施する。【満足度：90%以上】 ③ 各教科やホームルーム等で、事例をもとに成年年齢引き下げについて理解を深め、対処法を身に付けさせる。 ④-1 昨年度就職した企業25社には電話によるアフターケアや求人依頼を行った。【総連携活動件数100件以上】 ④-2 1月末時点で合否未決定者の生徒もいるが、進路決定者の満足度は97.4%であった。	① 「主権者教育指導計画」を教員と連携して実施し、主権者教育の推進に貢献する。【主権者教育担当者】 ② 求人数は昨年より増加したが、応募前見学の機会を増やしたことで、企業との連携が深まった。 ③ 成年年齢引き下げについて、事例をもとに理解を深め、対処法を身に付けさせることができた。 ④ 企業やハローワークなど、進路指導に活用できた。	① ③ 各教科や各学年の連携を深めたい。 ② ④ 職業適性の検査は、希望の進路を導くための一つの目安として活用していきたい。	① ③ 各教科や各学年の連携を深めたい。 ② ④ 職業適性の検査は、希望の進路を導くための一つの目安として活用していきたい。

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価
重点課題4	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見
<b>「安全安心な教育環境の整備」</b> (全体レベル) 学校の環境美化やエコ活動を充実させ、公共心の育成を図り、災害からの安全確保等、命や環境を守るために主体的に行動できる能力と態度を育てる。 (下位組織レベル) ① 環境ISO活動の取組を進め、その行動を通して公共心を育てる。 【環境課】 ② 望ましい生活習慣の確立と豊かな心の醸成を図り、感染症防止対策のための能力・態度を育成する。 【保健厚生・危機管理課】 ③ 防災に関する活動を通して、防災意識を高めるとともに、地域の中で主体的に行動する実践力を育成する。 【保健厚生・危機管理課】	評価指標 環境ISO活動の取組を進め、ゴミの減量化、分別を実施する。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底する。 防災避難訓練を実施する。	評価指標による達成度 環境ISO活動の取組を進め、ゴミの減量化、分別を実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底できた。 防災避難訓練を実施した。	総合評価 (評定) B ----- (所見) ①-1 電気使用量が昨年より増加しており節電の取組と啓発が必要である。 ①-2 整美委員活動による分別作業は定着してきた。 ①-3 リサイクル活動によりゴミ費用の軽減化が図れた。 ②-1 生活習慣を改善してもすぐに結果が現れないため、体調不良や痛み等、困っていない日常の生活習慣改善の難しさを感じている。食事、歯科、肥満等の分野に分けて今後も継続的に指導を行っていく。 ②-2 厚生委員会活動の実施回数を増やし、委員会活動を活発に行う。 ③ 生徒・職員が積極的かつ意識を高く持ち訓練や研修に臨むことができた。	① 環境ISOの取組であるゴミの減量化、分別化、節電を継続的に実施する。また、効果的な啓発を図る。 ② 生活習慣の振り返りを行うことで生徒自身が自分の生活習慣について見直すきっかけとなることを願い、来年度も調査を実施する。 保健教育については3学期に実施したところ、前向きな意見が多数見られた。今後も計画的かつ継続的に保健教育を実施し、ICTも活用しながら生徒の心に残る指導に努める。 生活習慣については、家庭との連携は大切である一方、自分で判断・行動できることが多い。睡眠時間や歯みがき習慣等、自分で行動変容できる生徒の育成を目指し、生徒の意識変容に繋がる保健教育となるよう内容を工夫する。 ③ 生徒・職員が積極的かつ意識を高く持ち訓練や研修に臨むことができたが、若干であるが将来予想されている震災等についての危機意識が薄れているように感じた。次年度は、緊張感を持たせたい。
	①-1 節電の啓発と電気使用料の見える化を実施する。 【調査回数：年2回】 ①-2 「ゴミゼロの日」を設定し、ゴミの減量や分別等意識向上を図る。 【整美委員会活動：年11回】 ①-3 リサイクル活動を実施する。 【整美委員会：年3回】	①-1 1年間の電気使用量と電気料金について各ホームルームに掲示し、啓発を行った。 【調査回数：年1回】 ①-2 ゴミの減量と分別を実施した。 【整美委員会活動：年11回】 ①-3 リサイクル活動を実施した。 【整美委員会活動：年1回】	①-1 電気使用量が昨年より増加しており節電の取組と啓発が必要である。 ①-2 整美委員活動による分別作業は定着してきた。 ①-3 リサイクル活動によりゴミ費用の軽減化が図れた。 ②-1 生活習慣を改善してもすぐに結果が現れないため、体調不良や痛み等、困っていない日常の生活習慣改善の難しさを感じている。食事、歯科、肥満等の分野に分けて今後も継続的に指導を行っていく。 ②-2 厚生委員会活動の実施回数を増やし、委員会活動を活発に行う。 ③ 生徒・職員が積極的かつ意識を高く持ち訓練や研修に臨むことができた。	
	②-1 生活習慣の振り返り調査を実施する。 【調査回数：年2回以上】 【目標達成者：80%以上】 ②-2 基本的な感染症拡大防止対策等の重要性を、厚生委員会を通して働きかける。 ----- ③ 防災に関する活動を通して、防災意識を高め実践力を育成する。 【避難訓練：年2回以上】	②-1 生活習慣振り返りシートを用いて生徒の生活習慣調査を5月に実施した。生徒自身の目標達成度を調査したところ80点以上と回答したのは39%であった。1月には1年生を対象に歯科保健指導を行い、生徒の生活習慣改善について振り返り調査を行った。 ②-2 厚生委員の生徒がホームルームで感染対策について注意を呼びかけた。 ----- ③ 防災研修及び避難訓練を実施した。 【避難訓練：年2回】 【防災研修：年3回】	①-1 本校における電気使用量について理解ができたと考えている。節電への足がかりとしたい。 ①-2 ペットボトル等校外からの持ち込みも多く、課題である。 ①-3 ゴミの減量に繋がった。 ②-1 う歯や肥満等、本校生徒の課題について、今後も学校医や学校歯科医と連携し、指導を行う。 ②-2 今後も基本的な感染対策を継続して行う。 ③ 地域住民・生徒・職員が意識を高く持ち訓練が実施できた。また、緊急時には本校が避難所となることを周知できた。	
活動計画 ①-1 電気使用量を調査し、数値をグラフ化する。 ①-2 整美委員によりゴミの減量化啓発と分別を実施する。 ①-3 整美委員によるリサイクル活動を実施する。 ----- ②-1 朝食の摂取率や睡眠時間等の生活習慣についてアンケート調査を実施し、生徒の課題について学校保健委員会で検討する。 ②-2 新型コロナウイルス感染症予防のため、教室の常時換気と黙食を推進する。 ----- ③ 防災に関する意識定着を図り、地域と連携した防災避難訓練を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 電気使用量の記録を各ホームルームに掲示し、見える化を図った。 ①-2 教室から出るゴミの分別を全クラスの整美委員により実施し、ゴミの減量に繋がった。 ①-3 不燃ゴミの分別を実施し、リサイクルを実施した。 ----- ②-1 生徒の生活習慣について振り返りシートを使ってアンケート調査を実施した。学校保健委員会で課題について学校医・学校歯科医から指導助言を頂いた。 ②-2 「換気」や「黙食」の掲示物を作成し、教室掲示を行った。 ----- ③ 地域住民と合同で防災避難所運営訓練を実施した。 【防災研修会：年1回】			

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題5	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
重点課題5 「エシカル消費・SDGsの推進」	(全体レベル) 持続可能な社会の実現に向けた「徳島ならではの」の教育を推進し、エシカル消費やSDGsについて多様な教育活動を展開する。  (下位組織レベル) ① 人に関わり、人を大切に活動する。【農場長】 ② 社会・地域を大切に活動を推進する。【農場長】 ③ 環境に配慮する活動を推進する。【農場長】 ④ 活動内容を広く県民に情報発信する。【農場長】	評価指標 教科や特別活動を通し、人・社会・地域・環境に配慮したエシカルな行動ができることを目標とする。 【自己評価実践度：60%以上】	評価指標による達成度 コロナ禍ではあったが、生徒が主体的にエシカル消費を意識した行動ができ、情報発信をすることができた。 【自己評価実践度：63.2%】	総合評価 (評定) A	① HACCP認証取得に向けた取組には、人的・物質等様々な課題が山積している。日頃の学習成果として認証していただけるように、さらに実績を上げて、取得を目指して欲しい。  ①②③④ 城西高校はSDGsやエシカル消費教育の推進に対し、とても積極的に取り組んでいる。  ② 阿波藍の染色体験数を増加させ、徳島県の魅力を五感で感じてもらう取組を行う。また、農産物販売所「そよかぜ」の接客マナーを向上させ、お客さまの満足度を上げる。  ③ エコバッグ持参活動を継続し、お客さまの活動がどれくらい環境に好影響を与えているか掲示する。  ④ 阿波藍に関するSNS(Instagram・TikTok)発信を継続するとともに、学校ホームページにもQRコードを掲載し、多くの方にエシカル消費の情報を広める。
		①-1 地産地消・障がい者の支援につながる商品を利用した新商品開発を推進する。【新商品開発：2品目以上】 ①-2 徳島県独自のHACCPの認証を受け、消費者が安全で安心できる生産工程を実践する。【1品目の認証】	①-1 徳島県の食材としてスタチフィナンシェ、さつまいもプリン、鳴門の塩サブレクッキー、ゆこうクッキーを商品開発することができた。【新商品開発：4品目】 ①-2 徳島県独自のHACCPの認証を受けることができなかった。【HACCP認証：0品目】	(所見) ①-1 新商品開発は4品だが、障がい者支援につながっていない。 ①-2 クッキーの製造においてHACCP認証を受けることができなかった。  ②-1 本藍染め体験は、生徒が主体的に指導している。生徒の取組から魅力を再発見していただいた。 ②-2 お客様は交流を楽しみに来店している。お客様に満足してもらうためにも、農産物の充実、接客マナーの向上に研鑽しなければならない。  ③ エコバッグ持参推進活動は定着の傾向にある。より一層の推進を図りたい。  ④ TikTokへの配信を始めた結果、総再生回数が9万件を超えた。今後の阿波藍の認知度にどのような影響があるのか楽しみである。	
		②-1 阿波藍の染色体験を通し、徳島県の魅力を再発見する機会を提供する。【本藍染め体験：5回以上】 ②-2 そよかぜ販売所を開店し、販売学習を通して地域との交流を深める。【販売所開店：10回以上】	②-1 コロナ禍でも積極的な交流を行うため、日本人の体験者だけでなくALT・留学生・藍染め交流で訪れた外国人の方々にも、染色体験を通して阿波藍の魅力を感じていただいた。【阿波藍染色体験：9回】 ②-2 地域に貢献するそよかぜ販売所を開店し、販売学習を通して地域との交流を深めることができた。【販売所開店：17回】	②-1 本藍染め体験の様子をSNS(Instagram・TikTok)で発信し、エシカル消費に取り組んでいる姿を県民のみならず、世界に知らせることができた。【SNS発信：39回】	
		③ そよかぜ販売所においてエコバッグ持参推進活動を行う。【推進活動：10回以上】 ④ 本藍染めの体験の様子をSNSで発信し、エシカル消費に取り組んでいる姿を県民に知らせる。【SNS発信：10回以上】	③ そよかぜ販売所においてエコバッグ持参推進活動を行った。【推進活動：17回】 ④ 本藍染め体験の様子をSNS(Instagram・TikTok)で発信し、エシカル消費に取り組んでいる姿を県民のみならず、世界に知らせることができた。【SNS発信：39回】		
	活動計画 ①-1 規格外農産物について生産者の思いを聞き取り、食品ロスを削減する。 ①-2 障がい者福祉施設で加工した原材料を使用した商品を製造する。  ②-1 阿波藍の染色体験を通し、伝統文化阿波藍の魅力に触れさせる。 ②-2 そよかぜ販売所を定期的に開店し、生徒主体で接客・応対を行う。  ③ エコバッグ持参により、レジ袋の削減とゴミ減量化を図る。  ④ 阿波藍の栽培から本藍染めまでの工程及び本藍染め体験の様子をSNSで発信する。	活動計画の実施状況 ①-1 本校の規格外サツマイモを干し芋に加工・販売した。また、規格外イチゴを収穫・加工し、食品ロスを削減した。 ①-2 障がい者福祉施設で加工した原材料を使用した、カボチャサブレクッキーの製造・販売を行った。  ②-1 阿波藍の染色体験を広めるチラシを作成し、販売イベント等で配布した。 ②-2 コロナ禍のため、入店人数を制限したが、生徒自らお客様に声をかけ、商品説明やレジ対応を行い、丁寧な接客・応対を行った。  ③ エコバッグ持参活動も定着し、お客様がエコバッグを持参することでレジ袋の軽減に協力している。  ④ 阿波藍の栽培から本藍染めまでの工程及び本藍染め体験の様子をTikTokで動画配信を行った。	①-1 生産者から農作物への思いを聞き取り、食品ロス削減に積極的に取り組むことができた。 ①-2 障がい者福祉施設で加工した原材料を使用し、新商品開発に取り組みたい。  ②-1 チラシを配布することで、染色体験の希望者が増えた。今後も広報活動に力を入れたい。 ②-2 事前研修に時間がかかるが、接客する中でその大切さが分かり、言動が変化している。  ③ エコバッグ推進のポスターを作成し、開店までの待ち時間に読んでもらえるよう掲示し、理解が深まっている。  ④ SNS発信により国内外の多くの方々に阿波藍を知っていただけた。更にSNSの発信を充実させていきたい。		